

「トラホーム」ノ統計的小觀察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38023

ノナリ「セキシシ」ヲ用ヒテ陽性ナル時ハ男性胎兒ニシテ陰性ナル時ハ女性胎兒ナルヲ示ス、他ノ疾病診斷モ亦陽性ナレバ當該疾病ノ存在ヲ示ス

余ノ百有餘例ニ亘ル實驗例ハ煩ヲ省ク爲茲ニ之ヲ略スル事ト致シタリ好學ノ士願クハ醫學中央雜誌ノ十月二十日號一覽ヲ吝ム勿レ

余ハ尙該雜誌上ニ於テ尿診斷ガ吾人人類及ビ動物界ニ齎ラス天幸ヲ思ヘ浮ビシマ、ニ陳述スル所アリタリ即チ初期妊娠診斷、初期流産診斷、妊娠中胎兒ノ性診斷、子宮外妊娠ノ眞否決定ニ躊躇スル時ノ診斷、理學的診斷法ニヨリテ未ダ不明ナル程度ノ疾病ヲ早期ニ診斷シ得ル事、尿ハ新舊ノ如何ヲ問ハズ而モ酵素ハ寒暖ニヨリテ何等ノ影響ヲ受ケザル事、材料ノ得易キ事、方法ノ簡單ナル事等比々皆然リ

尙余ハ試驗實施中ノ注意事項トシテ試驗管清淨法及煮沸法、血炭末上ニ尿或ハ蒸溜水点滴法、「パンプロール」反應檢査法及ビ反應出現鑑別法、基体投入法、基体投入後ノ濾過法、妊牛牛乳飲用者尿及尿診斷ニ就テ、「パンプロール」ノ經濟的使用法、血炭使用上ノ注意、妊娠及ビ産褥

反應出現期、試験管ト試験管把持器ニ挿入スル方法等ヲ述ベ最後ニ馬尿採取法（尿診斷ハ獸醫界ニ歡迎サル、事頗ル大ナリ）等ヲ述ベテ稿ヲ終ヘタリ之等ハ畢竟余ノ老婆心ヨリ出デタル一片ノ蛇足ニ過ギムト雖又以テ一顧ノ價値ナキニシモアラザラム

願クハ未ダ尿診斷ニ疑心ヲ抱クノ士ハ須ラク余ガ醫學中央雜誌上ニ發表セル所ヲ一讀又再讀シテ晨ニ夕ヲ計ルベカラザル駸々タル醫學ノ進歩ニ遅レザラン事ヲ、蓋シ是獨リ吾人一個人ノ利ニ止マラズシテ實ニ國家ノ益ナレバナリ

稿ヲ了ウルニ際シテ懇篤ナル高教ト豊富ナル材料ヲ給セラレ淺學ナル余ヲシテ終ニ尿診斷ノ一般ニ通ゼシメラレシ恩師木内博士ニ對シテ茲ニ满腔ヲ感謝ノ意ヲ表ス

（大正四年九月廿五日脫稿）

「トラホーム」ノ統計的小觀察

醫科四年級 小山元瀨

「トラホーム」ハ一種ノ傳染病ナルハ學者ノ等シク認ムル

所ニシテ其ノ傳染ハ主トシテ眼脂ノ接觸ニ由ルコト明カナリ其ノ病原體ハ遺憾ナガラ現今猶五里霧中ノ有様ナレバ今後益々諸學者ノ精密ナル研究ト努力トヲ待タザルベカラザルヤ明カナリ。然シ其ノ本體ハアル一種ノ細菌ナルコト確實ナルガ如シ。本症モ亦他ノ傳染性ノ疾病ト異ナル所ナク其ノ感染ヲ容易ナラシムル要件即誘因ノ存在スルコト疑フ餘地ナシト云ヘドモ又各個人ノ素質ノ預ツテ大ニカアルヲ忘ルベカラズ。自分ハ曾テ小野慈善院小學兒童二十七名ノ小數例ニ付キテ實驗セシ結果モ亦此ノ事實ナルヲ証明シ得タリ。即チ彼レ等ハ完全セル衛生的設備ノ下ニ生活スル能ハズ加フルニ常ニ「トラホーム」ノ感染上最モ重要視セラルル寢具及洗面器等ヲ朝夕共同ニ使用シ感染ノ機會ヲ多ク有スルニモ關セズ、不感染者猶數名ヲ有スルノ點ハ益々吾人ヲシテ其ノ素因ノ然ラシムルヲ思ハシム。假令誘因ノ力大ナリトモ此ク個人ノ素質ニシテ缺除センカ感染スルコトナク又誘因如何ニ小ナルモ素質ヲ有セル者ハ容易ニ感染シ得ベキハ理ノ然ラシムル所ト云フベシ。抑モ人體ハ其ノ構造實ニ複雜ニシテ靈妙不可思議ノ點多シ。故ニ今各人ニ就テ仔細ニ其ノ生活

現象ヲ檢セバ皆其ノ顔貌ノ異ナガ如ク必ズヤ多少ノ差異ナキ能ハズ。其レ故各人ハ外因ノ刺戟ニ對スル抵抗力ノ強弱ニモ著シキ差異アルハ、アヘテ不思議ナラザレバ單ニ外因ノミニテハ疾病ヲ發起スル能ハズ必ズ内因ノ同時ニ存在スルヲ要スルナリ。即内外ノ二因相待ツテ疾病ヲ發スルコト事實ナルベシ。今逆ツテ其ノ誘因ヲ案ズルニ「トラホーム」ハ不潔病ノ異名ヲ有スルガ如ク不潔ハ一大誘因ヲナスモノニシテ彼ノ貧民窟等ノ下層社會其他一般衛生的思想ノ發達セザル民間ニ本症患者ノ多數ヲ見ルヲ以テ此レガ証明トナシ得ベシ。猶專門家ノ統計ニヨレバ主トシテ衆人群居スル所、例ヘバ孤兒院工場校舍監獄等ニ多ク特ニ衛生的設備不完全ノ所ニ一層猖獗ヲ極ムルガ如シ。又他ノ統計ニヨレバ一家庭中ニ一人本患者ヲ有スルモノアレバ他ニ必ズ一名又ハ、二名ノ感染者ヲ有スルコト多シト、以テ本症ニ家族病ノ別名ヲ冠セル專門家モ少カラズ。斯クテ一家ニシテ本疫ノ多キハ其ノ家ノ衛生思想ノ缺乏セルヲ示スベク一國ニシテ本症多キハ其ノ國ノ衛生的設備ノ不備ナルヲ証シ得ルモノニシテ「トラホーム」蔓延ノ狀態ハ實ニ文明ノ程度ニ一致スト云フモ過

言ナラズ。此クテ不潔ハ本症ノ傳來ニ關シテ最モ重大ナル關係ヲ有スルモノナルガ故ニ大ニ警戒ヲ要スルコト疑ヒナシ。其ノ他猶本症ノ感染ニ密接ナル關係ヲ有スルモノハ結膜ノ刺戟ニシテ今結膜ニシテ常ニ充血及加答兒ヲ有スル時ハ局所ノ組織其ノ抵抗力薄弱トナリ、「トラホーム」ノ感染ヲシテ極メテ容易ナラシムベキ一要件トナリ得ルコト事實上証明セラルル點多シ。彼ノ工場ノ所在地ニシテ石炭ノ黑煙絶エズ天ニ漲リ或ハ行人雜踏シテ塵埃常ニ人ノ周圍ニ立チ纏ヒ爲メニ空氣ハ常ニ汚染セラルル底地ハ共ニ結膜ニ充血及加答兒ヲ發セシムル要件ニ適スル處ニシテ彼ノ海岸地モ又風ノ間ニ飛ビ立ツ砂塵ノ結膜ヲ刺戟スルコト一層甚ダシク信ゼラルル此レ等ニ反シテ人口密ナラザル高地ニシテ衛生的設備完全セル處ハ「トラホーム」ノ誘因トナラザルハ勿論却ツテ「トラホーム」治療上最モ賞賛スベキ土地ト云ハザルヲ得ズ。曾ツテ本校出身ニシテ當地ニ開業シ居ラル、某醫師ノ小學兒童「トラホーム」検査ノ成績ニヨレバ海岸ヲ距ルニツレ「トラホーム」患者數減少スルト云フ。本例ノ如キハ誘因ノ一ツトシテ第一ニ砂塵ノ有害ナルヲ思ハシムルニ足ルベシ。

猶「トラホーム」ニ關係ヲ有スルモノハ氣候及年齡ニシテ彼ノ塵埃著シク飛散スル八、九月及寒サ肌ヲ刺ス一、二月頃ハ共ニ結膜ニ及ボス障礙少ナカラザレバ其ノ感染ヲシテ容易ナラシムルコト明カナリ。本症ハ又壯年者ニ多シト云フ彼レ等ハ常ニ屋外ニ出デ、スベテノ刺戟ニ遭遇スル機會多ケレバ不思議トスルニ足ラザルナリ。

「トラホーム」ハ我が國到ル處ニ存在スルモノニシテ實ニ國民病トモ稱セラル。然シ現今文明ノ進歩ニツレ此レガ撲滅策ニ専心勤ムルニ至リ諸種ノ統計上年々「トラホーム」患者ノ減少シ行クヲ示シ居ルハ國家ノ慶事ト云ハザルベカラズ。彼ノ文明ノ程度高キ英國、瑞西、獨逸ニアリテハ現今本病者極メテ少數ニシテベルリン大學等ニ於テハ學生ノ爲メニ「トラホーム」患者ヲ得ルニ容易ナラズト云フ。

我が國ニテモ幸ニシテ年々「トラホーム」患者減少スル傾向ヲ有ストハ云ヘ未ダ遠ク歐洲諸國ノ其レニ比スベクモアラズ小川博士ノ研究ニヨレバ日本眼科醫ノ治療スル眼病數ノ二分ノ一乃至三分ノ一ハ「トラホーム」ナリト云フニ至リテハ今後益々此レガ撲滅ニ關シテハ國民ノ一致共

同ノカヲ要スベキコト明カナリ。

今左ニ二三ノ「トラホーム」ニ關スル統計表ヲ示シ其ノ蔓延ノ状態ヲ示サントス。此ノ稿ヲ起スニ當リテ金澤病院眼科ニ於ケル「トラホーム」患者ノ精密ナル統計表(栗山氏作製)ヲ參考トシテ供セラレタル先輩栗山光太郎氏ニ對シテ厚ク感謝ノ意ヲ表ス。

(I) 金澤病院「トラホーム」患者累年男女罹病率

年次	43		44		1		2		3		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194
294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294
394	394	394	394	394	394	394	394	394	394	394	394
494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494
594	594	594	594	594	594	594	594	594	594	594	594
694	694	694	694	694	694	694	694	694	694	694	694
794	794	794	794	794	794	794	794	794	794	794	794
894	894	894	894	894	894	894	894	894	894	894	894
994	994	994	994	994	994	994	994	994	994	994	994

(II) 金澤病院「トラホーム」患者總計表

年次	10		11		12		13		14		15		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194
294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294
394	394	394	394	394	394	394	394	394	394	394	394	394	394
494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494
594	594	594	594	594	594	594	594	594	594	594	594	594	594
694	694	694	694	694	694	694	694	694	694	694	694	694	694
794	794	794	794	794	794	794	794	794	794	794	794	794	794
894	894	894	894	894	894	894	894	894	894	894	894	894	894
994	994	994	994	994	994	994	994	994	994	994	994	994	994

各年齡トラホーム總數	3		2		1		0	
	男	女	男	女	男	女	男	女
148	148	148	148	148	148	148	148	148
182	182	182	182	182	182	182	182	182
216	216	216	216	216	216	216	216	216
250	250	250	250	250	250	250	250	250
284	284	284	284	284	284	284	284	284
318	318	318	318	318	318	318	318	318
352	352	352	352	352	352	352	352	352
386	386	386	386	386	386	386	386	386
420	420	420	420	420	420	420	420	420
454	454	454	454	454	454	454	454	454
488	488	488	488	488	488	488	488	488
522	522	522	522	522	522	522	522	522
556	556	556	556	556	556	556	556	556
590	590	590	590	590	590	590	590	590
624	624	624	624	624	624	624	624	624
658	658	658	658	658	658	658	658	658
692	692	692	692	692	692	692	692	692
726	726	726	726	726	726	726	726	726
760	760	760	760	760	760	760	760	760
794	794	794	794	794	794	794	794	794
828	828	828	828	828	828	828	828	828
862	862	862	862	862	862	862	862	862
896	896	896	896	896	896	896	896	896
930	930	930	930	930	930	930	930	930
964	964	964	964	964	964	964	964	964
998	998	998	998	998	998	998	998	998

I. 表ハ明治四十三年度ヨリ大正三年度ニ至ル男女「トラホーム」患者ノ關係ヲ示スモノニシテ五個年間ニ於ケル男患者八八三名女患者七八八名ニシテ男患者ノ遙カニ女患者ヲ超越シ居ルヲ見ルベシ。其ノ他多クノ統計表ヲ見ルニ常ニ男患者數ノ女患者數ヨリ多キコト本統計ト異ナル所ナシ。猶本表ニ於テ注目スベキハ年ヲ經ルニツレテ「トラホーム」患者減少シ行ク状態ニシテ明治四十三年度ニテハ男患者數二〇〇名ナルニ大正三年ニハ一二八名ニ減少シ女患者數モ四十三年ニハ一二八名ナリシガ大正三年ニハ一一五名ニ減少セルヲ見ルベシ。本表ヨリ考フルモ「トラホーム」患者ハ年ヲ追フテ次第ニ減少行ク傾向ヲ有スルコト疑ヒナシ。

II. 表ハ年齡ト「トラホーム」トノ關係ヲ示スモノニシテ本表ニヨレバ十一歳ヨリ二十歳迄ハ最モ多數ニシテ明治四

十三年ヨリ大正三年迄都合五個年間の總計五八一名ヲ算シ次ギテハ二十一歳ヨリ三十歳迄ニ多ク五個年間總計二五〇名ヲ算シ「トラホーム」患者ノ最モ少數ナルハ五十歳以上ノ者ニシテ五個年間ノ總計一二一名ヲ算シ得ルノミ要スル處「トラホーム」ハ二十歳ヨリ三十歳ノ壯年ノ期ニ最多ナルヲ推察シ得ベシ。水尾博士ニ依レバ初生兒ニ「トラホーム」ナシト云フ。

自分ハ會テ機會ヲ得テ小野慈善院小學兒童ヲ初メ市内一小學校兒童ニ付キ「トラホーム」症ノ檢査ヲ行ヒ得テ此處ニ簡單ナル小統計表ヲ作製シタレバ左ニ其レヲ示サントス。去ル十二月上旬某醫師(學校醫)ノ紹介ヲ以テ市内一小學校(都合上校名ヲ秘ス)ニ赴キ學童二百十六名ニ付キ實驗セシ結果ハ左表ニ示スガ如シ本表ヲ作製スルニ當リ兒童ノ年齢及男女ノ關係ニ至ル迄精密ニ發表スル能ハザリシハ遺憾ノ至リナリ。故ニ本表ニテハ主トシテ學年ト「トラホーム」トノ關係ヲ聊カ知ルヲ得ベキノミ。

年級	一年	二年	三年	四年	五年	六年	高一	高二	總計
總人員	三六	四六	五一	五〇	四六	三三	二三	三六	

トラホーム	二三	二三	二二	二三	八	二四	二	三
健康者	二四	三三	四〇	三七	三八	四	二二	二四八
百分比例	三二	三二	三三	三三	三三	三三	三三	三三

七十二名ノ「トラホーム」患者中ニハ重症ト認ムベキ者一人モナク中等症、輕症、疑似症ヲ含ムモノニテ輕症ヲ最多トス。此ノ統計表ニ於テ注目ヲ要スベキハ學年ノ進ムニ從ヒテ「トラホーム」患者數減少スル點ナリ。即最低學年タル尋常一年級ノ三六・一ノ比ハ六年級ニ至リ二・二ニ比トナリ高等二年級ニ至リテハ八・四ノ比ヲ示ス。此ノ表ノ示ス處ニ依レバ確カニ學童ノ知識ノ發達ニツレ「トラホーム」ノ減少シ行クハ疑フ處ナシ。次ギニ小野慈善院小學兒童全部ニ關シテ檢シタル成績ノ大要ヲ記シテ稿ヲ終ラントス。去ル十二月五日親友南兵太郎君ト共ニ小野小學兒童ノ健康診斷ヲ行フベク相計リ當日午後二時半頃目的地ニ到着セリ。南君ハ主トシテ皮膚病及外科第二部の方面ヲ檢セラレ、自分ハ「トラホーム」檢査ヲ主トセリ。「トラホーム」檢査ノ主眼ハ男女年齢及學年ト「トラホーム」トノ關係ヲ知ルニアリシガ遺憾

ナガラ全兒童僅カ二十七名ニ過ギザレバ趣味アル統計表モ作り得ズ。却ツテ世ノ笑ヒヲ招キテハト懸念スルコト度々ナリシガ恥ヲ忍ビテ其ノ統計表ヲ發表スルニ決セリ。當日診斷方法トシテ疑ハシキ場合ニハ食鹽反應ヲ應用シテ此レヲ確定シタリ。

年級	男女		總人員	缺席	檢査人員	トラホム	健康者	百分比例
	男	女						
一年	三	一	四	〇	三	一	二	六六・六
二年	五	二	七	〇	五	二	一	八〇・〇
三年	五	一	六	〇	五	一	四	五〇・〇
四年	三	二	五	〇	三	二	一	一〇〇・〇
五年	二	〇	二	〇	二	〇	〇	一〇〇・〇
六年	三	〇	三	〇	三	〇	〇	一〇〇・〇
高一	二	〇	二	〇	一	一	〇	一〇〇・〇
總計	二七	一四	四一	〇	三六	五	九	六三・一

今本表ニ付キテ檢スルニ金澤病院ニ於ケル統計ト同様ニ男患者ノ女患者ヨリ其ノ數著シキ差ヲ以テ超越スルヲ見得ベシ。即男患者八五・七ノ比ニ對シテ女患者二八・五ノ比ヲ有ス小學校全體トシテハ六二・一(プロセント)ノト

ラホーム」患者ニシテ其ノ大半ハ感染シ居ルヲ知り得ベシ。

小野ハ向山山腹ニ位シ土地高ク從ツテ空氣ノ不潔ヲ招ク憂少ク常ニ心地良キ氣ハ其ノ周圍ヲ充シ彼ノ人口密集セル低地トハ一段其ノ趣ヲ異ニスル點ニ於テ本症豫防上望マシキ處ト云フベシ。然シ未ダ衛生的設備皆無ノ狀態ナレバ本症ノ撲滅ハ勿論其ノ豫防策モ殆ンド施ス能ハザルハ遺憾ナリ。自分ハ十一月下旬ヨリ小野小學兒童十有餘名ニ付キ「トラホーム」治療ニ努メタリ。治療ノ方針ハ速カニ其ノ病毒ヲ攻撃シ治療期ヲ短縮セシムル點ニ基キ主トシテ觀血的療法ヲ採用セリ。即充分炎症々狀去リ顆粒明瞭トナリタル時期ヲ撰ビテ手術ヲ行ヘリ。手術式ハ種々アレドモ自分ハ主トシテ所謂河本博士ノ抓擦法ヲ以テセリ。方法次ノ如シ

一、初メ手術眼ニ二%ノ「コカイン」水ヲ點眼シ、殘時眼ヲ閉鎖セシメ置キ、後五%ノ「コカイン」水ヲ點眼シ、暫クシテ、

二、患者ヲ手術台上ニ運ビ兩眼ヲ、充分「ボール」水ニテ洗滌シ、手術眼ヲ反轉シ、結膜下ニ「コカイン」アドレ

ナリン」液ヲ注射ス。

三、此クシテ後、助手ヲシテ角板ヲ保持セシメ、西洋楊子ヲ以テ、結膜面顆粒ノ存在部ヲ充分抓擦シ、顆粒ヲ盡ク擦去シ後、五千倍「昇汞水」ヲ綿花小球ニ浸シ、結膜面ヲ摩擦スルコト數回ニ及ビテ、後「ボール」水ノ洗滌ヲ行ヘリ。此ノ手術時ニクナツプ氏「ロールツアング」ヲ使用シタルコトアリシガ、充分小顆粒ヲ壓出スルコトヲ得ズ、不便ノコト多カリシ爲メ、只二三回西洋楊子ト共ニ併用シタルニ過ギズ。

此クシテ、手術後ハ、眼ノ刺戟ヲ避ケ、安靜ヲ保タシムルト同時ニ、化膿性細菌ノ侵入ヲ防ギ、一方充血及浮腫ヲ去ル目的ヲ以テ術後四日間。患眼ニ「ボール」水ヲ浸セル「ガーゼ」片ヲ眼瞼上ニ置キ、其ノ上ニ綿花ヲ置キテ、假綿帶ヲ命ジ。術後ハ日々通院セシメテ、其ノ經過ヲ注意シ、大ニ此レガ治療ニ努メタリ。手術ノ翌日ハ、結膜面ニ、白色ノ義膜ヲ有シ居リシガ、數日後ハ、全ク消失シ去リ。未ダ一ヶ月ヲ過ギザルニ、大ニ輕快シ來リ、内ニハ最早全治ノ傾向ヲ示シ居ルモアリテ、心私カニ愉快ノ感ニ堪ヘズ。然シ、自分ハ、此レガ治療ニ著手シテヨ

リ、日猶淺キ爲メ、治療後ノ成績ニ關シテ、精密ナル報告ヲ、此處ニ發表スル能ハザルハ、遺憾ノ至リナリ。然シ前述ノ如ク其ノ經過ニ付キテ見バ其ノ成績至極佳良ト言ハザルベカラズ。今多クノ成書及雜誌等ヲ繙クニ、本症ハ輕症ノ如ク見ユルモノモ、意外ニモ、全治迄ニ長日月ヲ要シ、又此レニ反シテ重症ノ如ク見ユルモノモ、割合早ク全治スルコトアリト云フ。ニヨレバ或ハ前述ノ如キ患者モ、今迄佳良ノ經過ヲ取ルト雖モ、今後ハ、意外ニ長キ日月ヲ要スルヤモ計リ難カルベシ。蒼皇筆ヲ執リコトトテ要領ヲ得ザル所モ又少カラズ諸君之ヲ諒セラレンコトヲ。

雜 錄

●第三回遠足記 知 原 生

大正四年十一月七日(日曜)河北潟畔に加賀神社を訪ひ、乘じて深谷の靈泉に一日の行樂を繼にせり。

午前八時淺野川大橋に集合。朗かなる碧空、晶々たる日光、秋晴何ぞ爽なる。一行は相前後して淺野川大橋を渡り、森ト、春日、大槌の長き町を通